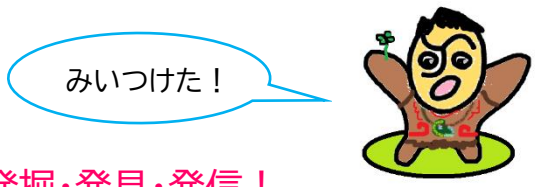
六ヶ所村立郷土館通信

2024.5.12 No144

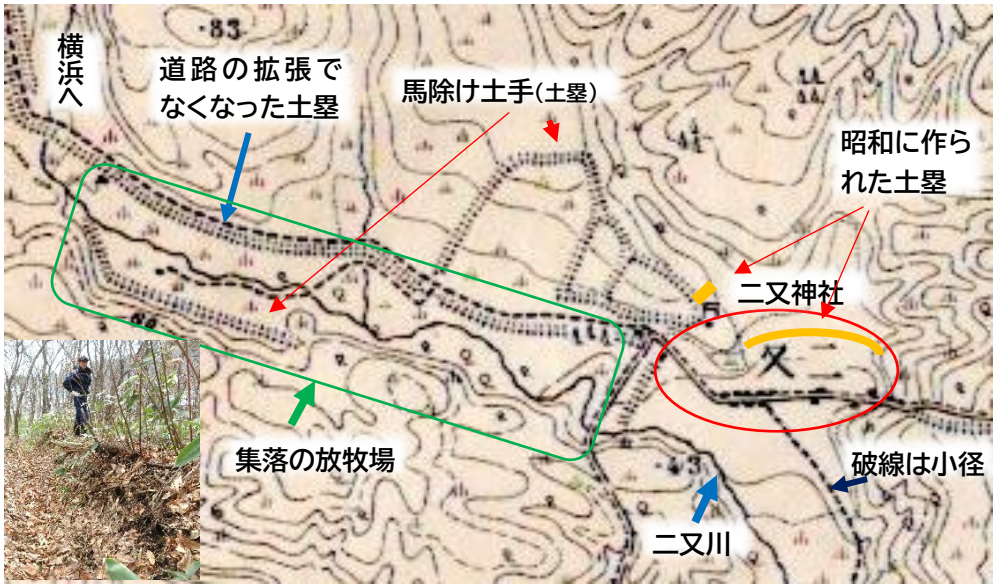


六ヶ所村の魅力を発掘・発見・発信！

二又魅力発見ツアー「土塁編」

2024年4月27日実施のふるさと歴史散歩「二又魅力発見ツアー：二又の土塁と馬飼い」について、ご紹介いたします。

以前から、平安時代（951年）の後撰和歌集に出てくる「おぶちの駒」の「尾駮の牧」や、江戸時代の南部藩の藩営牧場の一つで、尾駮の牧を復興したといわれる「有戸野牧」が六ヶ所村のどのあたりにあるかを調べていました。そこで、大正3年に大日本帝国陸軍陸地測量部作製の5万分の一の地図を手掛かりに記載されている「土塁：馬除け土手」を探していました。戦後の開発などにより、ほとんどの土塁は削平され、江戸時代や明治時代のものは、なかなか見つかりません。やっと見つけた江戸時代の土塁も2年前に、村から民間に払い下げられ、資材置き場になっていました。昔の牧場がここにあったと証明できる歴史的な遺産ともいえる「土塁」が、いとも簡単に消えていく現実がありました。秋戸淳一さんや秋戸操さんの案内で調査すると、大正3年の地図にある土塁を確認することができました。明治時代の土塁と昭和に作られた土塁を見つけました。村内外に貴重な歴史的遺産としての土塁を、今回のツアーで紹介することができました。関係機関と協力しながら、保存を進めていきたいです。（館長）



神社西側の土塁

大日本帝国陸軍陸地測量部作成地図　大正3年測量：大正6（1917）年発行　一部加筆

土塁（馬除け土手）

この記号は土塁で、点線の小道に沿って作られたりしている。土塁は、①馬除け土手②冬場の歩道③防火用（3月に牧草の野焼きを行うため）④地類の境として使われた。二又集落の西側に放牧場があり、約 200 頭が飼われていた。

放牧場（旧二又小跡地）

※写真：秋戸薫氏提供

馬飼いの様子：「馬は、２歳駒になると七戸の競市で売ったが、良馬は軍用馬として陸軍補充部に買い上げられ、５歳になるまで民間に預けられ飼育された。どこの家も 10 頭から 20 頭くらいの馬を常時飼育していた。馬は、4 月から 10 月迄集落の牧場に放牧し、11 月に入ると各自のマヤで飼育した。草刈り場は、春に野火を付け、種付けは 4 月と 5 月に行われた。出産は、２月から３月にかけてマヤで出産したが、集落に牧夫経験者が多かったので獣医の必要もなかった。」

※参考文献：青森県教委　1974　『むつ小川原地区　民俗資料緊急調査報告書（第二次）』より抜粋